

ジベレリンによる「但馬1号」(なしおとめ)の収穫期を早める方法

新品種「但馬1号」の収穫期を早めるため、満開40日後にジベレリンペースト剤を塗布したところ、熟期が7日程度早まり、平均果重も増加した。これにより、盆需要に対応が可能となる。

内容

但馬地域では、県が育成した「但馬1号」の普及が推進されている。収穫期は例年8月20日前後であるが、もう少し早く収穫できれば、盆の需要期に出荷可能となる。

そこで、ニホンナシに熟期促進効果を持つジベレリン(以下、GA)を用いて、「但馬1号」における有効性を検討した。

北部農業技術センター果樹園の「但馬1号」の果梗に20~30mg/果のGAペースト剤を塗布した。主枝ごとに満開30日後(30日区)及び40日後(40日区)に処理し、果実の生育や品質について無処理区と比較した。成熟期において、果皮色が「なしおとめカラーチャート」の3.6以上と評価された時点を適期とし、半数以上収穫した時点を収穫盛期とした。

40日区は8月13日に収穫盛期となり、無処理区

より7日早かった。また、30日区は8月16日に収穫盛期となり、無処理区より4日早かった(図1)。

果実の生育においては、6月に入ると40日区、30日区、無処理区の順で果実の肥大が促進され、収穫までこの順で肥大した。収穫時の果実重は、40日区は無処理区より平均で約60g大きかったが、30日区と無処理区に差はみられなかった(図2)。また、全ての区でヨード呈色(内部の熟度を示す)と糖度の差は認められなかった。

普及上の注意事項

ニホンナシのGAペースト剤の適用時期は満開30~40日後である。「但馬1号」において処理時期が遅くなると効果は高いが、適用時期を厳守して施用する。

木下 歩(北部 農業・加工流通部)

(問い合わせ先 電話:079-674-1230)

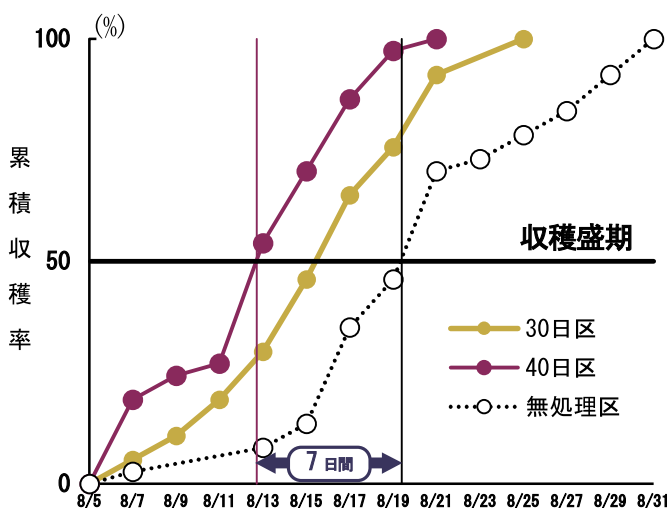


図1 GA処理が収穫時期に及ぼす影響(2020年)

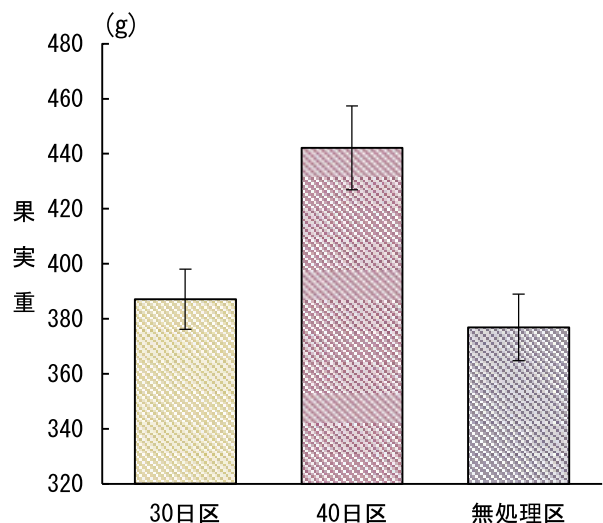


図2 GA処理が果実重に及ぼす影響